



今月の主要経済指標

目次

今月の経済関係統計資料		
1 宮崎県景気動向指数	1
2 宮崎県の鉱工業指数	2
3 みやざきの賃金・労働時間・雇用の動き	3
4 宮崎市の消費者物価指数	4
【参考】		
・ 「月例経済報告」抜粋	5
・ 「宮崎県金融経済概況」抜粋	6
・ データ編	8

平成28年6月



宮崎県総合政策部統計調査課

4 宮崎市の消費者物価指数（平成28年3月調査分）

総合指数 103.7 (平成22年=100) 前月比(±) 0.0% 前年同月比(+) 0.1%

(1) 概況

平成28年3月の宮崎市の消費者物価指数は、平成22年を100とした総合指数で103.7となり、前比は前月と同水準、前年同月比は0.1%の上昇となった。

総合指数の動きを前年同月比で見ると、平成27年11月は0.4%の上昇、12月は0.3%の上昇、平成28年1月は0.2%の上昇、2月は0.5%の上昇、3月は0.1%の上昇となった。

生鮮食品を除く総合指数は102.8となり、前月比は0.1%の上昇、前年同月比は0.3%の下落となった。

宮崎市の10大費目別指数、前月比、前年同月比及び寄与度（平成28年3月）

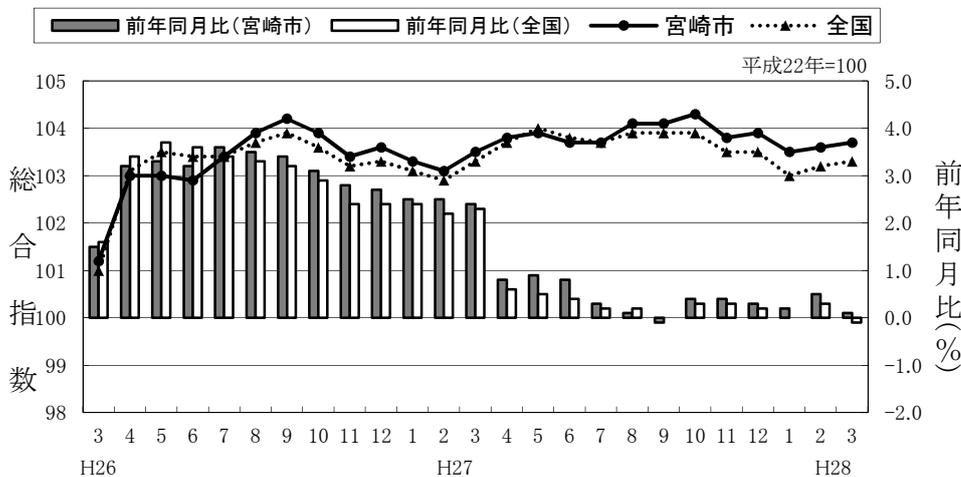
費目	指数	前月比		前年同月比	
		変化率(%)	寄与度	変化率(%)	寄与度
総合	103.7	0.0		0.1	
食料	109.0	-0.1	-0.04	2.6	0.65
住居	100.8	0.0	0.01	0.4	0.08
光熱・水道	111.3	-0.5	-0.03	-5.3	-0.36
家具・家事用品	93.8	0.2	0.01	-0.5	-0.02
被服及び履物	101.8	1.9	0.07	2.4	0.08
保健医療	100.3	0.3	0.01	-0.2	-0.01
交通・通信	100.7	0.1	0.02	-4.1	-0.64
教育	106.5	0.0	0.00	5.1	0.12
教養娯楽	98.0	-0.2	-0.01	1.2	0.11
諸雑費	110.5	0.4	0.02	1.3	0.09

(2) 総合指数の前月比に影響を与えた費目及び寄与度等

	(10大費目)	(中分類、前月比、寄与度)		(品目)	
		前月比(%)	寄与度		
上昇	被服及び履物	衣料	4.8	0.07	婦人スラックス（ジーンズ）
	交通・通信	交通	3.9	0.05	航空運賃
下落	食料	生鮮果物	-10.8	-0.15	みかん
	光熱・水道	電気代	-0.7	-0.02	

(3) 総合指数の前年同月比に影響を与えた費目及び寄与度等

	(10大費目)	(中分類、前年同月比、寄与度)		(品目)	
		前年同月比(%)	寄与度		
上昇	食料	生鮮野菜	13.7	0.22	じゃがいも
	教育	授業料等	6.4	0.12	
下落	交通・通信	自動車等関係費	-6.5	-0.68	ガソリン
	光熱・水道	電気代	-6.7	-0.22	



*** 参考資料**

「月例経済報告」抜粋（平成28年5月23日：内閣府）

【基調判断】

4 月月例	5 月月例
<p>景気は、このところ弱さもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人消費は、消費者マインドに足踏みがみられるなか、おおむね横ばいとなっている。 ・設備投資は、持ち直しの動きがみられる。 ・輸出は、おおむね横ばいとなっている。 ・生産は、横ばいとなっている。 ・企業収益は、<u>非製造業を中心に改善傾向にある。</u> <p>企業の業況判断は、慎重さがみられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用情勢は、改善している。 ・消費者物価は、緩やかに上昇している。 <p>先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復に向かうことが期待される。ただし、海外経済で弱さがみられており、中国を始めとするアジア新興国や資源国等の景気が下振れし、我が国の景気が下押しされるリスクがある。こうしたなかで、海外経済の不確実性の高まりや金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。また、平成28年（2016年）熊本地震の経済に与える影響に十分留意する必要がある。</p>	<p>景気は、このところ弱さもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人消費は、消費者マインドに足踏みがみられるなか、おおむね横ばいとなっている。 ・設備投資は、持ち直しの動きがみられる。 ・輸出は、おおむね横ばいとなっている。 ・生産は、横ばいとなっている。 ・企業収益は、<u>改善傾向にあるが、そのテンポは緩やかに</u>なっている。企業の業況判断は、慎重さがみられる。 <ul style="list-style-type: none"> ・雇用情勢は、改善している。 ・消費者物価は、緩やかに上昇している。 <p>先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復に向かうことが期待される。ただし、海外経済で弱さがみられており、中国を始めとするアジア新興国や資源国等の景気が下振れし、我が国の景気が下押しされるリスクがある。こうしたなかで、海外経済の不確実性の高まりや金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。また、平成28年（2016年）熊本地震の経済に与える影響に十分留意する必要がある。</p>

【各 論】

	4 月月例	5 月月例
個人消費	消費者マインドに足踏みがみられるなか、おおむね横ばいとなっている。	消費者マインドに足踏みがみられるなか、おおむね横ばいとなっている。
設備投資	持ち直しの動きがみられる。	持ち直しの動きがみられる。
住宅建設	<u>おおむね横ばいとなっている。</u>	<u>このところ持ち直しの動きが見られる。</u>
公共投資	緩やかに減少している。	緩やかに減少している。
輸 出	おおむね横ばいとなっている。	おおむね横ばいとなっている。
輸 入	おおむね横ばいとなっている。	おおむね横ばいとなっている。
貿易・サービス収支	黒字は、増加傾向にある。	黒字は、増加傾向にある。
生 産	横ばいとなっている。	横ばいとなっている。
企業収益	<u>非製造業を中心に改善傾向にある。</u>	<u>改善傾向にあるが、そのテンポは緩やかに</u> なっている。
業況判断	慎重さがみられる。	慎重さがみられる。
倒産件数	おおむね横ばいとなっている。	おおむね横ばいとなっている。
雇用情勢	改善している。	改善している。
国内企業物価	緩やかに下落している。	緩やかに下落している。
消費者物価	緩やかに上昇している。	緩やかに上昇している。
海外経済	世界の景気は、弱さがみられるものの、全体としては緩やかに回復している。先行きについては、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、アメリカの金融政策正常化の影響、中国を始めアジア新興国等の経済の先行き、原油価格等の下落の影響、金融資本市場の変動の影響等について留意する必要がある。	世界の景気は、弱さがみられるものの、全体としては緩やかに回復している。先行きについては、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、アメリカの金融政策正常化の影響、中国を始めアジア新興国等の経済の先行き、原油価格等の下落の影響、金融資本市場の変動の影響等について留意する必要がある。

（注）下線部は、先月から変更した部分。

* 参考資料

「宮崎県金融経済概況」抜粋（平成28年5月20日：日本銀行宮崎事務所）

この公表資料は当事務所ホームページに掲載しています。

ホームページアドレス <http://www3.boj.or.jp/miyazaki/>

2016年5月20日
日本銀行宮崎事務所
日本銀行鹿児島支店

宮崎県金融経済概況

【概要】

宮崎県の景気は、基調としては持ち直しの動きが続いている。足もとでは、観光が熊本地震の影響により大きく落ち込んでいる。

すなわち、最終需要面をみると、個人消費は、一部に弱い動きがみられるものの、底堅く推移している。観光は、熊本地震の影響から大きく落ち込んでいる。住宅投資は、持ち直している。また、公共投資は、下げ止まりつつある。

生産は、横ばい圏内で推移している。

企業部門の動向を短観（3月<鹿児島・宮崎両県集計分>）でみると、景況感は、良好な状態を維持している。設備投資は、良好な収益環境のもとで前向きなスタンスが維持されている。また、人手不足感は強まっている。

こうした企業動向を反映して、雇用環境は改善している。

【各論】

1. 個人消費

乗用車新車登録台数（含む軽自動車）は、軽自動車を中心に前年を下回って推移している。百貨店・スーパー販売額は前年を下回って推移しており、家電販売額も前年を下回った。

2. 観光

主要ホテル・旅館宿泊客数、主要観光施設入場者数とも、前年を上回った。

—— ヒアリング情報によれば、熊本地震以降、県外からの宿泊客（外国人観光客を含む）によるキャンセルが多数発生している模様。なお、一部の観光施設では、大型連休中、遠出を控えた地元客を中心に相応の入込みがみられたとの声も聞かれている。

